

▶ ヒルクライム大台ヶ原 since2001 の魅力

上北山村通信

～ ふるさと復興協力隊員・市川真理子が、毎月お届けいたします ～

自己紹介

「ふるさと復興協力隊」という県から派遣される形で、9月2日から西原に住んでいます。市川真理子といいます。もうすぐ23歳になります、生まれは田原本町です。

活動内容は、「村おこし」全般です。今ある観光事業や上北山村のもっている資源を生かして、更に住みよい地域にしていくお手伝いができたらと思い活動しています。事務所などは無く、役場の建設産業課に席を置いてもらっています。任期は最大3年間で、最初の9月と10月は村のことを見て・感じて・知っていき、それ以降は村の課題を解決できるよう、実際に動いていこうと考えています。未熟で至らない点だらけかと思いますが、がんばりますので、よろしく願いいたします。

この新聞について

ふるさと復興協力隊員から見た、村に住む人たちの魅力、村のもっている魅力、を発信して行こうと思います。ずっと住んでいたら当たり前前に思ってしまうのですが、外からぽんっと入ってくると、他の地域にはない素晴らしさが山のようにこの村にはあります。稚拙な文章ではありますが、お付き合いの程、よろしく願いいたします。

意見・感想などいただけたら嬉しいです！地域のことをもっと知っていきたいので、小さなことから大きなことまで、何でも教えてください！



市川です！
みかけたら仲良く
してください！



▶ 村民の手づくり感。

手づくりだからこそ行き届く小さな気配り、あたたかい応援は、他の地域では中々できていない部分。

例えば、帰りまで応援してくれるところ。自転車に毛布をかぶせてくれるところ。参加者にとって一番心に残り、「また来よう。」というきっかけになるようです。



▶ 「みんなで。」

ヒルクライムに向けて「村全体」が動く。印象的だったのが、主婦の方が「今までは子育てで来てなかったけど、今年は落ち着いたから。」と手伝いに来られてたこと。みんなでやるから、この熱気や一体感が出てくるんだろうなと。加えて暖かみも。



▶ 「ワーク 21」の存在。

「村での 21 世紀を考えよう。」というきっかけでつくられたワーク 21。村出身者に「村を良くしたい。」と考え、実際に動いている人がいるというのはとても貴重なことです。特に統括の啓一さんがいれば、お祭りが一層色付きます。



**上北山 KRC のみなさん、お疲れ様でした！
キッズのみんなもおつかれさま★**

